

施策評価シート

対象事業年度 令和 6 年度

政策	Ⅲ 環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり								施策推進 責任者	政策企画部長・港営部長・建設部長	政策Ⅲ：環境・にぎわい 重点施策4・施策5
重点施策	4 設備の省エネルギー化										
施策	5 良好な港湾環境の形成										

1.PLAN(目的・展開内容)

※シート中、「感染症」とあるのは、すべて「新型コロナウイルス感染症」を指す。

目的	サービスの対象者(誰のために)	地域住民、来訪者、就業者、船会社、港湾運送事業者、荷主など	意図(どういう状態にしたいのか)	水域の適正な管理が行われ、港湾における環境負荷が低減するなど、自然環境、生活環境、地球環境などさまざまな面で環境を守り環境にやさしい港
	サービスの対象物(何を)	港湾のあらゆる機能への環境配慮や自然環境保全の取組		
展開	(重点施策4) ▶再生可能エネルギーの利用拡大や照明設備のLED化などの省エネルギー化を積極的に進めます。			
	(施策5) ▶名古屋港から排出される温室効果ガスの削減に大きく貢献する、新舞子マリNPark風力発電所の適切な管理に努めます。また、本組合施設から排出される温室効果ガスの削減に積極的に取り組みます。 ▶生物多様性に配慮した海域環境の創出を図るため、西部地区において浅場造成に取り組みます。 ▶港内環境を良好な状態に維持し、水域を適切に管理していくため、漂流物の速やかな除去や、放置艇対策に取り組みます。 ▶公有地の適切な管理に努めるとともに、西部地区等においては、定期的なパトロールや地元自治体・事業者と連携した一斉清掃を実施することにより、ごみ等が不法投棄されにくい環境を整えます。			

重点施策4

2.DO(施策を構成する各事務事業の取組内容等)

コード	事務事業名 (担当課名)	令和6年度に実施した内容・結果	成果目標名 【指標型】	成果目標	年度							事業進 捗状況 (6年度)	令和6年度の事業進捗状況に対する評価	7年度 以降の 方向性	成果	今後の課題等	7年度以降の取組
					元	2	3	4	5	6	7				コスト		
					上段: 成果目標 目標値												
					中段: 成果目標 実績値												
					下段: 事業費(単年度・人件費込・国費除く)(単位:千円)												
重施04 事01	省エネルギー化の推進 (環境課)	名古屋港水族館の一部エリア(北館・南館・カメ類繁殖 研究施設等)、新舞子ポートパークのLED化を行った。	新たな再生可能エネ ルギーの導入に向けた進 捗状況 【進行管理型】	①導入手法の選定 ②本庁舎・港湾会館の再 エネ電気調達開始 ③その他施設における再 エネ電気の調達開始 (令和3年度完了)	1	2	3	-	-	-	-	-	照明設備のLED化については令和3年 度から着手しており、順調に進捗してい る。	継続	維持	照明設備のLED化に向けては、各施設 の状況(改修計画等)を見据えて効率的 に行えるよう、管理担当部署と調整を進 めていく必要がある。	施設の状況を踏まえ、適切な時期にLED化 を進めるよう、管理担当部署と調整を進め ていく。
				1	2	3	-	-	-	-							
			照明設備のLED化の進 捗状況 【進行管理型】	①効果の検証、整備手法等 の検討 ②全体計画の策定 ③LED化の着手 ④他施設への拡大 他施設の管理状況を踏まえ ると令和7年度までの拡大は 困難であると判断したため、 令和6年度からの目標値を下 方修正した。	1	2	3	3	4	3	3	順調			維持		
					1	2	3	3	3	3	-						
					33,190	9,174	9,000	4,500	3,185	4,230	-						
					重点施策4コスト(合計)												

施策5

2.DO(施策を構成する各事務事業の取組内容等)

コード	事務事業名 (担当課名)	令和6年度に実施した内容・結果	成果目標名 【指標型】	成果目標	年度							事業進 捗状況 (6年度)	令和6年度の事業進捗状況に対する評価	7年度 以降の 方向性	成果	今後の課題等	7年度以降の取組
					元	2	3	4	5	6	7				コスト		
					上段: 成果目標 目標値												
					中段: 成果目標 実績値												
					下段: 事業費(単年度・人件費込・国費除く)(単位: 千円)												
施05 事01	温室効果ガス総排出 量の削減 (環境課)	第5次名古屋港管理組合地球温暖化対策実行計画につ いて、組織としての取組や、日常業務における職員一人 ひとりによる継続的な取組を、指定管理者等とともに 行った。	当該年度の削減目標を 達成した項目数の割合 (%) 【単年度管理型】	温室効果ガス総排出量削減に係 る7つの取組項目 ①燃料(公用 車)②燃料(船舶)③電気(事務)④電気(事業用施設)⑤ガス・石 油等の燃料⑥ハイドロフルオロ カーボン⑦六フッ化硫黄)につ いて、当該年度の削減目標を設 定。全項目数に対して当該年度 の目標を達成した項目数の割合	100	100	100	100	100	100	100	目標値を 下回る	全7項目中5項目については、令和6年 度の削減目標を達成したが、「ガス、石 油等の燃料」については空調機や排水 ポンプ等の運転による燃料使用量が 増加したため、過年度と同様、削減目標に 達しなかった。また、「電気(事業用施 設)」については、基準年度(平成25年 度)に比べ温室効果ガス排出量は減少 しているものの、削減目標には達しな かった。	継続	維持	削減目標が達成できなかった「ガス、石 油等の燃料」、「電気(事業用施設)」に ついては、防災や生物の飼育等に応じ た設備の運転管理が必要となるため、 温室効果ガス排出量の削減には困難な 側面がある。	削減目標の達成に向けては、課題を考慮し たうえで、それ以外に削減の可能性のある 取組みを、関係部署と調整を図り検討してい く。
					85.7	85.7	85.7	85.7	85.7	71	-				維持		
					4,587	10,993	10,800	12,600	8,645	9,870	-						
施05 事03	西部地区海域環境創 造事業 (環境課)	令和5年度に投入した覆土の沈下量を確認したうえで、 計画天板高に仕上げ、浅場の造成を完了した。	生物生息場の整備の進 捗状況(全3工程) 【進管理型】	①計画 ②設計 ③整備	1	2	3	3	3	3	-	順調	令和3年度に整備した潜堤の沈下が収 束しなかったため、令和4年度施工予定 の工事が着手できなかったものの、令 和6年度に浅場造成の整備を完了し、順 調に目標を達成することができた。	完了			
					1	2	2	2	2	3	-						
					22,537	8,388	108,791	3,120	94,275	32,370	-						

2.Do(施策を構成する各事務事業の取組内容等)

コード	事務事業名 (担当課名)	令和6年度に実施した内容・結果	成果目標名 【指標型】	成果目標	年度							事業進 捗状況 (6年度)	令和6年度の事業進捗状況に対する評価	7年度 以降の 方向性	成果	今後の課題等	7年度以降の取組	
					元	2	3	4	5	6	7							
					上段:成果目標 目標値													
					中段:成果目標 実績値													
					下段:事業費(単年度・人件費込・国費除く)(単位:千円)													
施05 事04	港湾環境の啓発 (環境課)	みなと体験ツアー2024(環境・景観をテーマとしたコース)を9月に実施した。 環境イベント(環境デーなごや(9月)、Let'sエコアクションinAICHI(11月))にブース出展し、環境啓発活動を行った。	環境学習参加者の理解度(%) 【単年度管理型】	環境学習参加者に理解度についてアンケート調査等を実施。参加人数に対して、内容が理解できた人数の割合(%)を指標とする。なお、アンケート調査はサンプリング調査とする。	70.0	75.0	80.0	85.0	90.0	90	90	目標値を上回る	目標値を上回り、名古屋港の環境施策について理解が得られた。	継続	維持	特になし。	引き続き、本組合の環境施策について高い理解度が得られるよう、参加者が理解しやすい説明方法や説明内容を工夫し、図表や写真、パネルなどを活用し、環境啓発活動を行う。	
					86.0	95.0	96.0	97.0	98.0	91	91				維持			
					1,938	1,922	1,951	2,840	2,730	3,421	3,421				維持			
施05 事05	港内環境の調査 (環境課)	公害防止事業により敷設されたアスファルトマットの効果を確認するため、水質調査(3地点、年間4回)を行った。中川運河、堀川の水質調査(11地点、年間12回)を行った。 浚渫工事を実施する場合は、事前に底質の調査を行った。	測定計画等に基づく水底質調査の実施率(%) 【単年度管理型】	港内の水底質調査の実施回数÷年度の調査必要回数(%)	100	100	100	100	100	100	100	目標値どおり	適切に水質調査や底質調査を実施した。	継続	維持	特になし。	引き続き、定期的に水・底質調査を実施し、水環境を良好な状態に維持していく。また、浚渫工事において環境に影響がないよう状況把握を行う。	
					100	100	100	100	100	100	100				維持			
					17,811	10,659	8,286	8,237	10,190	12,397	12,397				維持			
施05 事06	放置艇対策の推進 (規制担当)	職員による放置等禁止区域の定期的な巡視を行った。放置等禁止区域において、所有者が判明しているにもかかわらず処理できなかった放置艇の移動・撤去を粘り強く交渉した。 プレジャーボート対策協議会において令和8年4月に大田川の放置等禁止区域の指定を拡大することを決定した。 また、新たな放置艇の受け皿として弥富ポートパーク(仮称)の費用便益比調査を実施した。	巡視及び行政指導を行った回数(回) 【単年度管理型】	放置等禁止区域の定期的な巡視および行政指導を行った回数。 適正な巡視および行政指導の回数は月4回程度。	48	48	48	48	48	48	48	目標値を上回る	放置艇に関しては、警告・勧告を行うなどの対策を進めた結果、減少しつつあり、行政指導の回数もピークの令和3年度と比較し減少している。	継続	維持	放置艇対策を推進するためには、放置等禁止区域の指定の拡大を検討する必要がある。また、弥富ポートパーク(仮称)の整備が必要である。	放置艇の移転、収容のための受け皿となる新舞子ポートパークの空き状況を注視しながら、放置等禁止区域の指定の拡大を検討していく。また、弥富ポートパーク(仮称)の早期整備に向け設計を進めていく。	
					46	39	62	49	52	50	50				維持			
					11,410	12,141	46,243	52,155	55,366	28,177	28,177				維持			
施05 事07	新舞子ポートパークの管理・運営 (規制担当)	指定管理者との連絡調整会議を2か月に1度開催し、モニタリングを四半期ごとに実施した。また、モニタリング結果を基に、指定管理者の業務内容を評価し、それを名古屋港管理組合のホームページで公表した。海洋性レクリエーション活動の健全な発展に資するため、体験乗船会を行った。	ポートパーク利用率(%) 【単年度管理型】	(利用隻数÷収容隻数＝利用率 但し、2隻は、緊急用および作業用に確保しているため除外)	100	100	100	100	100	90	90	目標値どおり	ポートパーク利用率については、利用者の高齢化が進み退艇者が増加し、目標値が実態に即さなくなった。中期経営計画の計画期間延長になったことから、令和6年度に利用率を現状に即した目標値に変更し、当該年度は概ね目標値どおりであった。 海洋性レクリエーション実施回数については、令和6年度は目標どおりの実績となり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2、3年度より後は順調に推移している。	継続	拡大	新舞子ポートパークの効率的・効果的な管理運営と利用者サービスの充実を図り施設の利用率を向上させる方策を検討する必要がある。	新舞子ポートパークは、放置艇対策の推進において重要な施設であり、令和8年度に予定している放置等禁止区域の指定の拡大に向けて、放置艇の誘導・収容を適切に行うため、引き続き放置艇所有者に対し施設の利用を働きかける。 また、海洋性レクリエーション活動の健全な発展に資する目標を達成するため施設を利用したレクリエーションを積極的に行う。	
					90	91	93	90	87	88	88				維持			
			海洋性レクリエーション実施回数(回) 【単年度管理型】	海洋性レクリエーション活動の健全な発展に資する目標を達成するため、年に4回以上のレクリエーション実施を目標とする。	4	4	4	4	4	4	4	目標値どおり			維持			
					6	1	1	4	4	4	4							維持
					7,787	7,861	8,100	7,780	9,020	9,970	9,970							維持
施05 事08	港湾区域内の漂流物除去 (海務課)	土日、祝日及び夜間を除き、本組合による港内の漂流物除去をはじめ、公益社団法人名古屋清港会の作業船による巡回清掃を毎日実施し、港内や運河河川の船舶の航行安全および公衆衛生の確保に務めた。また、業務委託により実施している大型漂流物除去や南部地区障害物除去については、迅速かつ確実に漂流物を除去した。	漂流物等による海難発生件数(件) 【単年度管理型】	迅速かつ確実な対応により港内での海難発生を未然に防ぐ。	0	0	0	0	0	0	0	目標値どおり	目標値どおり適切な水面管理を行うことができた。	継続	維持	作業船の老朽化が進んでいることから、事業に影響が出ないようにインフラ長寿命化計画に基づき適正な時期に修繕を実施する。また、老朽化に伴う建造についても検討する必要がある。	港内の漂流物除去および港湾区域内の河川の水面清掃を行うとともに、船舶の航行安全、港内水域の美化および水面の汚濁防止ならびに公衆衛生の向上を図る。	
					0	0	0	0	0	0	0							
			通報等による水面清掃の対応率(%) 【単年度管理型】	巡回および通報により確認された漂流物等を除去し、公衆衛生向上に努める。	100	100	100	100	100	100	100	目標値どおり						
					100	100	100	100	100	100	100				維持			
施05 事09	公有地の管理 (管財課)	不法投棄を発見した場合や不法投棄に関する通報に対して速やかに対応を行った。	巡視の回数(回) 【単年度管理型】	管理第一および第二係が月2回巡視を実施している。	48	48	48	48	48	48	48	目標値どおり	月2回の巡視を行うとともに、不法投棄の通報があった場合には速やかに対応したため、巡視の回数および不法投棄の通報等の対応率は目標値どおりとなった。	継続	維持	不法投棄を放置するとさらに不法投棄を誘発することから早期発見し、速やかに対応すること。	毎月の巡視により不法投棄を早期発見し、速やかに対応する。	
					48	48	48	48	48	48	48							
			不法投棄の通報等への対応率(%) 【単年度管理型】	公有地、緩衝緑地への不法投棄に関する通報等の対応率とする。	100	100	100	100	100	100	100	目標値どおり						
					100	100	100	100	100	100	100				維持			
施05 事10	ゴミの不法投棄・放置自動車対策の推進 (港営課)	西部地区一斉清掃は各地区ごとに日にちを分けて実施した(飛鳥地区:11月22日 木場金岡地区:26日 弥富地区:28日)。 放置自動車については、所有者に撤去を求めることで、2台が所有者により撤去された。また、廃物判定基準を満たす1台を令和5年度末に廃物認定し、処分を令和6年度に実施したことで、計3台の放置自動車が減少した。	西部地区一斉清掃(回) 【単年度管理型】	西部地区は不法投棄されやすいため、地元事業者および自治体の協力のもと、一斉清掃を実施することで啓発に努めてきた。その結果、ゴミ収集量が減少したことから、令和5年度の実施回数は1回とした。	2	2	2	2	1	1	1	目標値どおり	令和5年度はゴミ収集量の減少により、西部地区一斉清掃の実施回数を見直した。令和6年度においても目標どおりの回数を実施することで投棄や放置をされにくい環境を整えた。 放置自動車については、所有者への連絡を行うことで自ら撤去した2台、令和5年度末に廃物認定した1台を令和6年度に処分したことで、一定の成果を得ているが目標値を下回った。	継続	拡大	今後も取組を継続的に行っていく必要がある。	本事業は一部を除き、令和7年度より指定管理者である名古屋港埠頭株式会社が行うため、ゴミの不法投棄対策や放置自動車の削減、抑制対策をモニタリングを通じて確認していく。本組合が担う箇所の放置自動車対策を行うとともに、指定管理者とも連携しながら不法投棄されにくい環境を整えていく。	
					2	1	1	1	1	1	1				維持			
			放置自動車処分台数(台) 【単年度管理型】	名古屋港にある放置自動車を適正に処理し、放置自動車の台数ゼロを目指す。 目標値は、前年度末時点の放置自動車台数(＝処分すべき台数)とする。 実績は令和5年度までは廃物認定した台数だが、令和6年度より減少した放置自動車の台数とする。	1	4	3	3	3	6	3	目標値を下回る						
					2	2	0	0	1	3	3				維持			
					3,677	3,671	3,600	3,600	3,640	2,284	2,284				維持			

4.ACTION(課題・6年度以降の取組等)

2.D〇(施策を構成する各事務事業の取組内容等)

コード	事務事業名 (担当課名)	令和6年度に実施した内容・結果	成果目標名 【指標型】	成果目標	年度							事業進捗状況 (6年度)	令和6年度の事業進捗状況に対する評価	7年度以降の方向性	成果	今後の課題等	7年度以降の取組
					元	2	3	4	5	6	7				コスト		
					上段: 成果目標 目標値												
					中段: 成果目標 実績値												
					下段: 事業費(単年度・人件費込・国費除く)(単位: 千円)												
施05 事11	構築物建設、水域占用等の許可 (規制担当)	事業者から各種申請等を受理し、滞りなく許可等を行うことができた。許可等に際しては、各種申請書を受理する前に事業者と事前相談を行うことで申請手続きを支援なく進めることができた。 各種申請等に関する事業者からの事前相談に対しては、各種申請等の説明が掲載されているHPやリーフレットを活用して、事業者に対して丁寧な説明に努めた。 また、必要に応じて申請・許可等に係る現地確認を行っており、事業によっては各地区の担当者のみではなく、係の職員全員と意見交換を行った上で申請者からの事前相談や問い合わせに応じ、事業者及び内部の調整事項に関してはノーコードツールによる記録アプリを通じて情報共有することで、より円滑に手続きを進めることができた。	許可審査期間内に審査が完了できなかった件数(件) 【単年度管理型】	「名古屋港の港湾区域内または港湾隣接地域内における行為の許可に関する条例施行細則」に定められた許可審査期間(20日間)内に審査が完了できなかった件数	0	0	0	0	0	0	0	目標値どおり	許可審査期間内に審査が完了できなかったものはなく、業務を着実に遂行した。	継続	維持	港湾の秩序ある開発・利用が行われるよう、名古屋港に係る規制について分かりやすく説明する必要がある。	成果を維持し、引き続き適切な事務処理を行う。
					0	0	0	0	0	0	0				維持		
					47,705	47,637	38,970	38,970	39,403	40,702	ー						
施05 事12	港湾計画の変更 (計画課)	令和7年2月に行った内港地区(昭和ふ頭)における岸壁の老朽化対策に伴う公有水面埋立のための港湾計画の変更(軽易な変更)において、必要な環境の保全に関する資料を作成した。	環境の保全に関する資料を作成した件数 【単年度管理型】	港湾計画の変更に合わせて、環境の保全に関する資料を作成した件数。なお、港湾計画の変更がなかった年度は、実績を「0」で計上し、事業進捗状況を「目標値どおり」と評価する。	1	1	1	1	1	1	1	目標値どおり	港湾計画変更のスケジュールに合わせて、愛知県環境局などの関係者と調整し、事務事業を実施した。	継続	維持	特になし。	今後も港湾計画の変更が必要な場合には、関係者と調整しながら変更内容に応じた環境の保全に関する資料を作成する。
					1	2	0	1	1	1	1				維持		
					4,587	12,886	4,500	4,500	4,550	4,700	ー						

4.ACTION(課題・6年度以降の取組等)

4.A

（課題・6年度以降の取組等）

施策5コスト(合計)	248,001	213,570	327,986	236,482	332,367	341,240
合計(重点施策1+施策1)	281,191	222,744	336,986	240,982	335,552	345,470

3.C

（成果目標の状況・構成事務事業の妥当性）

施策 成果目標	年度		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	成果目標の達成度に対する評価（外部要因等があればその旨を踏まえて記載）
	実績等									
名古屋港管理組合温室効果ガス総排出量の削減率	目標値	%	11.6%	12.8%	14.0%	26.0%	30.5 ^注	33.3%	36.1%	再生可能エネルギー100%の電気調達や設備更新(LED化等)等の取組を推進したことにより、温室効果ガス総排出量の削減目標を達成した。 注：令和5年度より、第5次実行計画の運用開始に伴い、目標値を再設定した。
	実績	%	20.3%	32.9%	37.6%	27.7%	32.0%	34.0%	-	
放置艇の隻数	目標値 (仮目標値)*	隻	(601)	573	546	518	490	490	490	令和8年度に予定している放置等禁止区域の指定の拡大に向けて、放置艇所有者に説明会等を行い、早期に新舞子ポートパークへ移動することを促した。令和6年度の放置艇の隻数は目標値を達成できなかったものの、前年度と比べわずかながら減少し500隻となった。引き続き放置等禁止区域の指定の拡大に向けて、放置艇の移動を促していく。
	実績	隻	607	578	542	502	502	500	-	

※ 仮目標値

=

初期値(30年)

+

目標値(5年) - 初期値(30年)

5年間(中期経営計画期間)

×

30年からの経過年数

構成事務事業の妥当性(施策目的を達成するために構成した事務事業に不足や問題点はないか?)	
適正 見直しが必要	